

**2.2 情報の特性 ～情報のメリット・デメリットを知ろう～**

皆さんが図書館に入ってみた時、そこには図書・雑誌を始めとしたたくさんの資料(情報源)があります。そして、それぞれの情報源にはそれに合った特性があります。その特性を知って使いこなすことが、図書館を効率よく利用するうえで重要なポイントになってきます。例えば、言葉の意味を調べるのに多くの方は辞書を使ってみるのではないのでしょうか。図書館の資料を端から端まで調べていくのはあまりに効率が悪いですし、特性に合わない資料(例えば新聞)を調べても答えは得られないことはお分かりかと思えます。では、レポートで出てくるような課題、例えば第1章で出てきた「少子化問題」のような場合、皆さんはどの資料を使われますか？

この節では、皆さんに情報源の特性と、情報源を選ぶポイントについて知っていただきたいと思えます。

まず、情報源の特性から述べていきます。それぞれの情報源の特性は、おおむね下表のとおりになっています(「テレビ・ラジオ」は図書館では使えませんが、日常よく接する情報源ですので、比較のためとりあげています)。

情報源	メリット	デメリット
図書	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 評価・検証の定まった分野に強い</li> <li>● 専門分野でも入門者向けの情報が得られる(基礎知識を得るのに適している)</li> <li>● 図書館等で利用できる</li> <li>● 後日の読み返しもできる</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 速報性に弱い(最新動向を知るのには不向き)</li> <li>● 変化の激しい分野に弱い</li> <li>● 学術書は高額</li> </ul>
雑誌	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 特定の専門分野に強い</li> <li>● 時事関連情報に強い</li> <li>● 図書館等で利用できる</li> <li>● 後日の読み返しもできる</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 速報性は図書より優れているが、新聞・テレビ・ラジオ・インターネットには劣る</li> <li>● 学術雑誌では入門者向けの情報が少ない(一般雑誌は除く)</li> <li>● 学術雑誌は高額</li> </ul>

## 2.2 情報の特性 ～情報のメリット・デメリットを知ろう～

新聞	<ul style="list-style-type: none"> <li>●速報性に優れている</li> <li>●時事関連情報に強い</li> <li>●ローカル(地域・業界)情報に強い</li> <li>●図書館等で利用できる</li> <li>●後日の読み返しもできる</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>●速報性が高い分、誤報の可能性もある</li> <li>●専門情報に弱い (一部の新聞を除く)</li> </ul>
テレビ・ラジオ	<ul style="list-style-type: none"> <li>●速報性に特に優れている</li> <li>●時事関連情報に強い</li> <li>●地方局番組で、ローカル情報を得られることがある</li> <li>●地上波は無料で利用できる</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>●速報性が高い分、誤報の可能性もある</li> <li>●専門情報に弱い (一部の番組を除く)</li> <li>●情報が一方的に流しっぱなしになっているため、特に録画等をしない限り、必要な情報を必要な時に見ること・後日再確認することが難しい</li> </ul>
インターネット	<ul style="list-style-type: none"> <li>●コンピュータを使用するため、大量の情報を容易に調べられる</li> <li>●速報性に優れている</li> <li>●内容の多様性</li> <li>●情報に双方向性があるので、他の人との情報の交換が可能</li> <li>●非常に特殊な内容の情報や、公にしにくい種類・内容の情報が得られる可能性もある</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>●速報性が高い分、誤報の可能性もある</li> <li>●特に個人作成のサイトの場合、内容の信頼性が低いものもある(内容の真偽・情報の更新頻度・発信者の主観など)</li> <li>●内容の重要度(レベル)の差が大きく、情報を得る側の選択眼が必要になる</li> <li>●サイトの内容が更新されるため、必要な情報が消えてしまう可能性がある</li> </ul>

一方、これらとは違った情報源もあります。上記の情報源を「必要な情報そのもの」とするならば、こちらはいわば「必要な情報を探すための情報源」です。詳しくは次節以降で紹介しますので、ここではその特性を簡単に述べておきます。

## 第2章 情報の種類と特性

情報源	メリット	デメリット
参考図書 (辞書・事典など。 第6章も参照してください)	<ul style="list-style-type: none"> <li>●ある言葉・事項について、その意味・内容・用例等を調べるのに適している</li> <li>●図書館等で利用できる</li> <li>●後日の読み返しもできる</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>●速報性に弱い(最新動向を知るのには不向き)</li> <li>●変化の激しい分野に弱い</li> <li>●高額なものが多い</li> </ul>
データベース	<ul style="list-style-type: none"> <li>●専門分野の情報調査に強い</li> <li>●コンピュータを使用するため、大量の情報を容易に調べられる</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>●対象分野が限定的</li> <li>●高額な契約料が必要</li> <li>●契約条件により、利用場所等に制約がある</li> </ul>

このように、情報源にもさまざまな特性があります。皆さんが学習・研究等で情報入手しようとする場合、特性に合った情報源を選ぶのがよいでしょう。一般論として、次の形で情報を得るのがよいのではないのでしょうか。

専門分野を初歩(基本)から知る	図書(部分的な情報についてはインターネットも可)
専門分野の最新情報を知る	雑誌・インターネット
専門分野について書かれた論文の情報を調べる	参考図書・データベース
時事関係の情報を知る	テレビ・ラジオ・新聞・雑誌・インターネット
用語・事項の意味や内容を調べる	参考図書(時事用語等はデータベース)
ローカル情報を知る	テレビ・ラジオ・新聞・インターネット(歴史情報などは、図書・雑誌でも得られることがある)
速報性を要する情報を知る	テレビ・ラジオ・インターネット(速報性の度合いによっては新聞も含む)
非常に特殊な内容の情報を知る	インターネット(まれに図書)

※ インターネットは内容の信頼性に注意。また、テレビ・ラジオは情報を必要な時に得ること・後日再確認することが難しい(録画等が必要)ので注意。

では、これまでの説明をふまえて、「少子化問題」について調べる方法を考えてみましょう。

もちろん、インターネットを利用するのも有効ですが、ここではそれ以外の方法について述べます。

まず一般的な知識から得たいということであれば図書を調べます。

次に具体的なテーマ、例えば、「少子化に対する最近の地方の施策」を調べたいときには、基本的に雑誌論文や新聞記事を見ていくこととなります(テレビ放送もあるかもしれませんが)。そのためには、目的の論文がどこにあるか(どの雑誌の何ページに掲載されているか)を知る必要がありますが、それはデータベースで調べていきます。

調べていくうちに聞き慣れない言葉(例えば「新新エンゼルプラン」)が出てきたら、時事用語として参考図書(時事用語を調べられるもの)やデータベースを利用し、その意味を調べることも考えられます。

ところで、「コンピュータによる情報の検索」といえば、皆さんはまずインターネットからの検索を思い浮かべるでしょう。実際、これまでに述べたように、インターネットによる検索は幅広く情報を集められるなど、便利な点が多いです。ところが、図書館ではこれに加えてデータベースからの検索ができるようにしてあります。何か違いがあるのでしょうか、それを次節で述べていきます。

